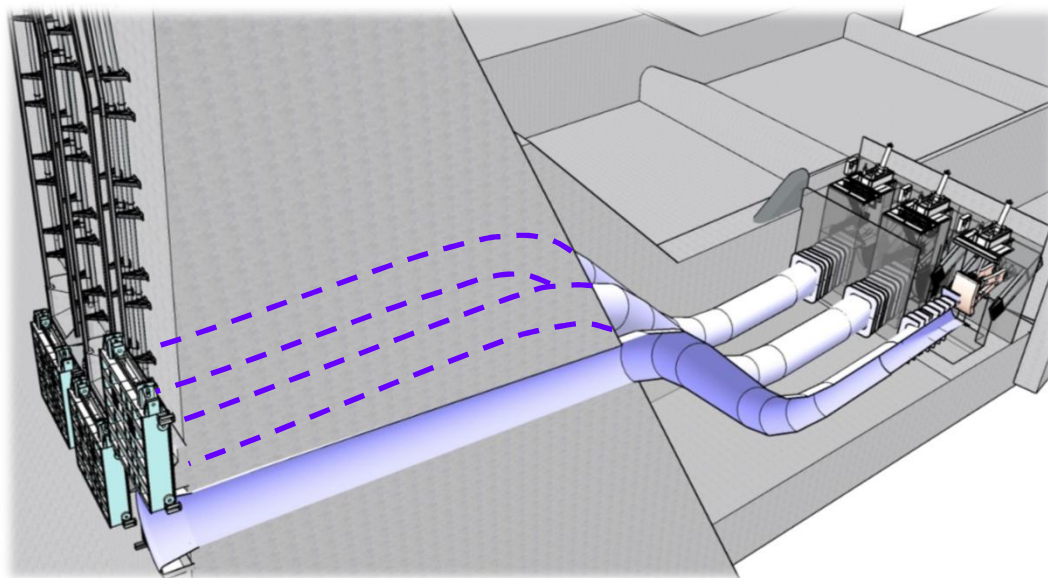




完成イメージ



放流設備の増設イメージ

○水系河川名

吉野川水系吉野川

○場 所

右岸:高知県 土佐郡 土佐町

左岸:高知県 長岡郡 本山町

○目 的

既設:洪水調節、流水の正常な機能の維持、
かんがい用水の供給、水道用水の供給、工業用水の
供給、発電

再生:治水機能を向上させ、吉野川の洪水による被害の軽
減を図る

○諸 元

既設:堤高 106m、総貯水容量 3億1,600万 m^3

再生:放流設備の増設、容量振替

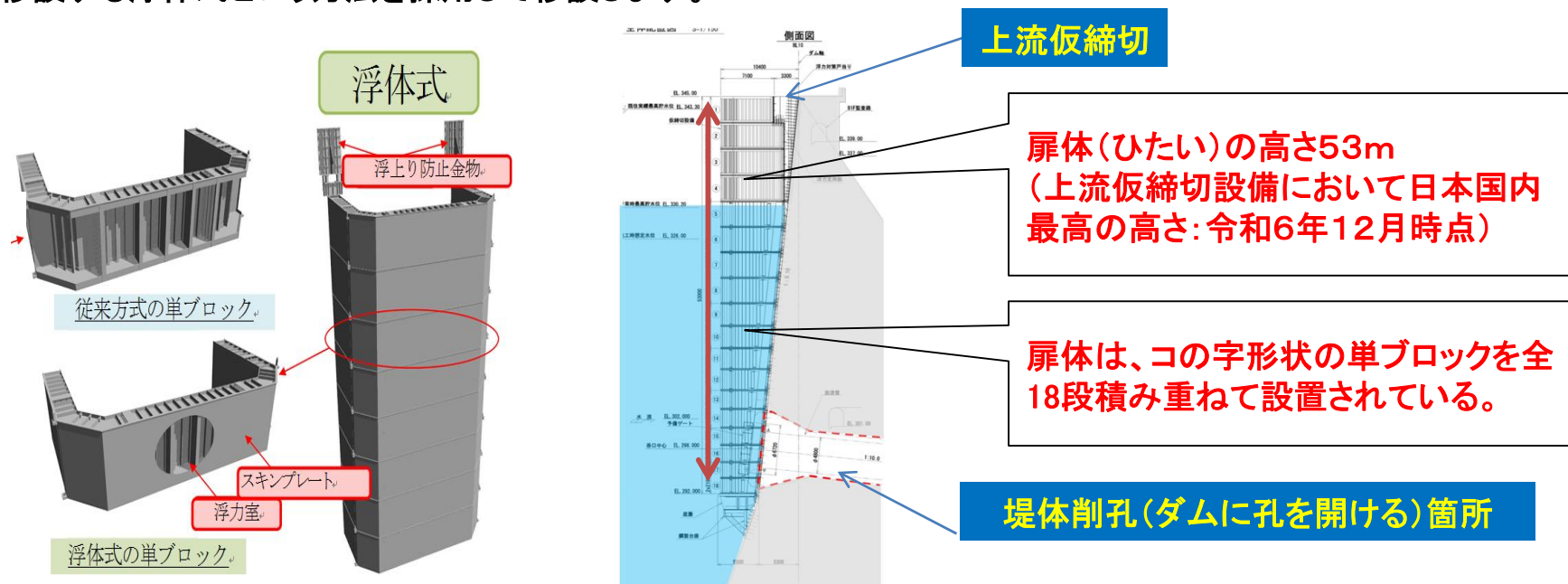
○工 期 平成30年度～令和10年度

○総事業費

総事業費 約 500 億円

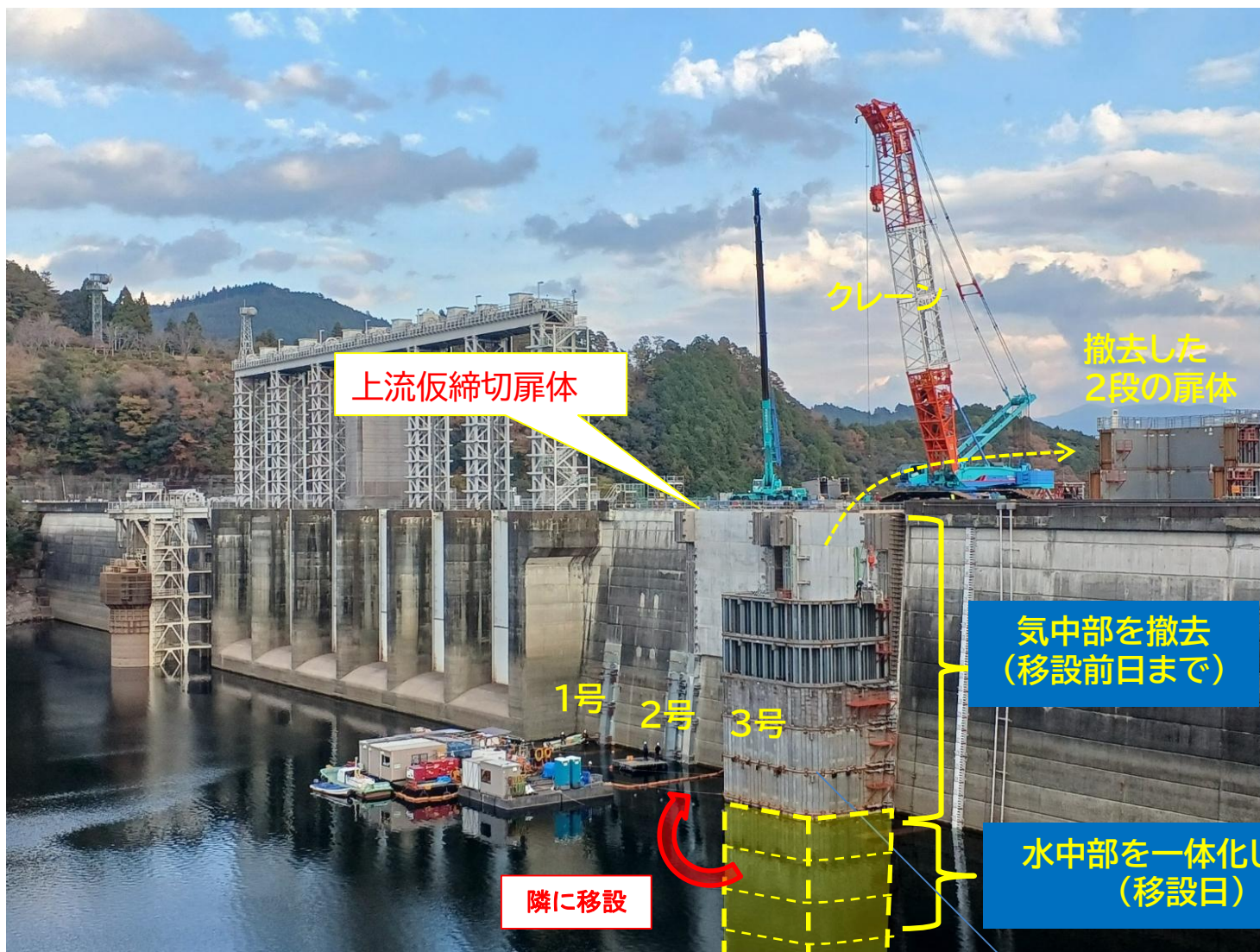
上流仮締切 目的と特徴

- ① ダムの管理運用(通常どおり水をためた状態)を行いながら、再生事業でダム堤体(ていたい)に孔を開けて放流管を設置するため、ダム下流に貯留水が流れないように上流側に鋼製の蓋として上流仮締切扉体(ひたい)を設置します。
- ② 従来の移設は、扉体の単ブロックを1個ずつ取外し再設置していましたが、移設期間を要するため、水中にある扉体を一体化したまま移設する浮体式という方法を採用して移設します。



12月10日の作業は、水中にある扉体11段を一体化したまま放流設備3号のところから隣の放流設備2号へクレーンにより移設させます。

上流仮締切扉体 一体化した移設作業(国内初)



- ① 上記写真は、12月2日の状況で気中部の扉体2段撤去した状態です。
- ② 移設作業前日までに、気中部(水面より上)を取り外します。また、水中部(水面より下)の扉体は一体化したまま堤体より少し離しておきます。
- ③ 12月10日に扉体11段を一体化したまま放流設備3号のところから放流設備2号へ移設させます。なお、扉体11段は水中にあるため、移設の風景は左記写真と異なります。